

会 議 録

平成 23 年 8 月 18 日調製

審議会等名	平成 23 年度 第 1 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 23 年 7 月 8 日（金） 午後 2 時～午後 4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	宮島泉委員長 捧礼子副委員長 小林修委員 佐藤あゆみ委員 後藤美智子委員 渡邊英美委員 本井晴信委員 米山文子委員 小出和子委員 説明のための職員 金子生涯学習課長 長谷川文化振興係長 三巻文化振興係主任 指定管理者 太向館長 瀧澤責任者 佐藤副責任者 竹内副責任者
協議題	(1) 委員長・副委員長の選出について (2) 平成 22 年度の図書館利用状況について (3) 平成 23 年度の図書館事業計画について (4) 平成 23 年度 4 月以降の利用状況について (5) その他
生涯学習課長	あいさつ
自己紹介	委員、生涯学習課職員、指定管理者職員の順に自己紹介
図書館長	三条市立図書館協議会運営規則では議長は委員長が務めることになっているが、現時点では委員長・副委員長ともに不在であり、選出までの間事務局で進行する。 委員長・副委員長の選出は「委員の互選により定める」となっている。ご推薦があればお願いしたい。
小林委員	指名推薦ということだが、初めての方もおいでであるし、私も全員の方はよく知らないので、事務局一任としてはどうかと思う。皆さん、いかがか。
渡邊委員	事務局のほうで進めていただければと思う。
各委員	「異議なし」の声
図書館長	事務局一任ということでご異議がなかったので、委員長を宮島委員に、副委員長を捧委員にお願いしたい。
各委員	拍手をもって選出
宮島委員長	就任のあいさつ
捧副委員長	就任のあいさつ
図書館長	以降の議事は、委員長に進行をお願いしたい。
宮島委員長	それでは議題に沿って進める。協議題(2)「平成 22 年度の図書館利用状況」について説明をお願いしたい。
図書館長	資料 No.1、2 に基づき、平成 22 年度図書館利用状況について説明
米山委員	本館や嵐南公民館分室の利用が伸びないことについては、駐車場が狭く車では来にくいという要因がある。栄は駐車場が広いので、そちらには行きやすい。駐車場を広くすることが難しいのであれば、徒歩や自転車でもっと来てもらえる工夫をすべきで

	はないか。
宮島委員長	駐輪場をもっと綺麗にしたり、駅側には庇がないので付けるなどすれば、もっと利用しやすくなると思う。
米山委員	側溝もゴミが溜まっていたりする。職員だけで大変ならボランティアを依頼し、清掃したほうがいい。
図書館長	美化を心がけたい。
本井委員	蔵書構成を見ると、5 類の「技術」を比較的よく収集しているようだが、5 類や 6 類（産業）に重点を置き、しかも目で見てもわかりやすいヴィジュアルな本を多く集めていくといいのではないか。
竹内副責任者	5 類も料理や裁縫など家庭用の本が多く、技術や産業の本は現状ではあまり収集できていない。今後検討していきたい。
後藤委員	「おはなしの出前」というサービスを行っているとのことだが、どのようなことをしているのか。
図書館長	絵本の読み聞かせや手遊びなどを、30 分くらい行うことが多い。図書館職員 2～3 人で行ったり、ボランティアさんに参加してもらうこともある。
後藤委員	学校や保育所、幼稚園等に、このようなサービスがあることを知らせているのか。
図書館長	毎年春にチラシを配布しお知らせしている。実施をご希望の場合、日時等をご連絡くだされば調整する。私共のやり方を見て先生方もコツをつかんでいただければ、ご自分でおできになる方もいらっしゃると思う。
佐藤委員	小学校の学校訪問は、どういう機会に、どういう内容で訪問しているのか。例えば、読書週間の際に読み聞かせで呼ぶのか。私も利用してみたいと思った。
瀧澤責任者	資料に載っている学校については、主に春と秋の読書週間に依頼が来ている。内容は、ほとんどの学校がブックトークを希望される。学年ごとや 2 学年ごとに区切って、ブックトークや素話、絵本を 2 冊読み聞かせといった組み合わせが多い。大体授業の 1 コマ（45 分）を使っている。
宮島委員長	それでは次に、協議案（3）「平成 23 年度事業計画」について説明をお願いします。
図書館長	資料 No.4 に基づき、平成 23 年度事業計画について説明
米山委員	19 ページの「スクール支援パック」の提供がどういうものなのか教えてほしい。
図書館長	図書館から学校にまとめて資料を貸し出す方法が 2 つあり、1 つは「団体貸出」といって、テーマやご要望に応じてその都度選書し、1 ヶ月 100 冊貸し出すもの。もう 1 つが「スクール支援パック」で、学校の授業のテーマ等に合わせてあらかじめ図書館で選書し、パッキングしておく。ご案内してお申し込みいただければ、すぐに貸出ができるもの。
本井委員	「重点目標」として旗を掲げ、それに基づいてやることは柱としてはいいと思うが、それ以外は“日常”の問題になると思う。「子どもたちや親を呼ぼう」という意気込みと並行して、それ以外の、我々のような“高齢者”をどうするのか。団塊の世代がまだ当分の間、相当居る世の中である。その人たちは「自分で好きなようにご利用ください」「自己責任でやってください」という方向なのかと解釈しているが、団塊の世代やそれに続く人たちへの対応について、何か考えを持っているか。

図書館長	確かに、子ども向けの事業に力を入れてきた一方で、一般の方向け、高齢者向けの取り組みは弱いと思っている。資料のテーマ展示（コーナーづくり）等を日常的に行っている程度で、特別な計画はない。
生涯学習課長	公民館もそうだが、高齢者向けや成人向けの講座を行って、その後サークルをつくり自主的な活動をしてもらうという方向へ進んでいかなければならない。図書館も、読書活動を推進している中で、例えば資料の22ページに掲げられている「三条短歌会」とか「文学サロン」「古文書を読む会」などについては、会場の確保、情報提供などを行うことで、「自主的な読書の支援」を行っているのご理解いただきたい。
渡邊委員	<p>「子どもの読書活動推進計画」に沿ってこれだけいろいろ計画しているが、やはり中学生ぐらいの 때가最も図書館利用がなく、私も親として、どうしてもっと本を読まないのかと思っている。「コンクールの開催を目指した『図書館を使った調べ学習』の推進」はとてもいいことだと思う。今は「調べる」というと、すぐに「自宅でインターネット」になりがちであるが。図書や資料をもっと上手に使った調べ学習を、ぜひ推進していただきたいと思った。</p> <p>また、「失われゆく“三条の記憶”」についても、先ほど井栗小学校が調べ学習で利用したという報告があったが、「三条の昔の暮らしを学ぶ」につながっていく。</p> <p>自動車文庫については、学校での利用が昨年から少し減ってきたということだったが、学校と密に連携していかないと、成功しないのではないかと考えた。</p> <p>最後に報告があった「学校だより」への記事掲載については、「ああ、そういう手があったのか」と思った。大変だとは思いますが、先生方・子どもたちとはもちろん、保護者も巻き込んで密に行っていく必要があると思った。</p>
竹内副責任者	中学生の利用については、昨年度から、本館に入って右側に「ティーンズコーナー」を設け、10代の子どものための図書をまとめて置いている。また、自動車文庫については、今年度の途中からになるが、6月から大浦小学校、9月から保内小学校が新しいステーションとして加わることになった。
渡邊委員	うちの子どものための小学校でも、自動車文庫を非常に楽しみにしているが、その時間帯にちょうど突発的に行事が入って、「今日借りようと思っていたけど借りられなかった」ということが時々あった。何かもっと連携を取ればよいと思った。
図書館長	「今日はこういう行事が入ったので、自動車文庫の訪問時間をずらしてほしい」と事前に連絡いただき、他のステーションとの調整ができれば、時間を変更するようにしている。ただ、次のステーションとの調整ができない場合もある。
本井委員	図書館は利用が増えれば増えるほど、資料が傷められたり、なくなったり、いろいろなリスクを背負ってしまう。その損失の大きさもばかにならない。それは、利用者各自の自覚に頼むしかない面もあるが、しかし、どこかで口うるさく、「こういうふうにしてください」「こういうふうになると傷んでしまいますよ」とか、「こういうふうに対処すると長持ちします」と言う必要もあるのではないかと。また、「どうせただで借りているんだから」というような安易な気持ちでいい加減に扱ったりする人に限って、期日通りに返さないことがよくある。そういう道徳的な問題を、やはり若い時からきちんと心得ておいてもらわなければいけない。わかっているがなかなかそれが

	実行できてなかったり、身についていない場合もある。自動車文庫で出かけていく場合も、図書館に来てくれた時も、そういう説明の時間を少なからず取っていただきたいと思う。
米山委員	先ほどもちょっと感じたが、「サービス」とするとどうしても「お客様」として扱いがちだが、そうではなく図書館のプロとして、利用者を啓蒙する、警告するということも、大事なことかなと思う。
後藤委員	私どもも図書館の図書を借りると、保育所内で独自に「絵本をどのように扱ってほしい」という手紙を利用開始の時に付けてお貸ししている。「本はこのように利用していただきたい。傷めないように大事にしてください。本は専門の袋にちゃんと入れてください」というように。毎年そういう取扱注意のようなものをつくって配布し、それからスタートしている。でもなかなか伝わらない。ちょっとした時に切ってしまったとか、下の子がいたずらしたというようなことがある。「今後は気をつけて」と言うのだが、なかなか難しいというのが実感である。
米山委員	それでも、何回も何回も啓蒙する必要があると思う。
図書館長	資料1点1点も市民の皆さんの財産だから、大切にさせていただくよう心がけていく。
宮島委員長	小林委員さん、学校図書館の委員長さんとして何かないか。
小林委員	私の学校も図書館から活動を助けていただいているし、ボランティアさんのサークルからも助けていただきながらやっていて、子どもたちが本に親しむ活動には十分いっているだろうと思うが、先ほど中学生のお母さんから話があったように、中学校でもなかなか定着は難しいので、繰り返し繰り返しやっていくしかないと思う。朝読書も子ども任せではなく教師と一緒にやらないとしないというが、家庭から来るノートに目を通すと、なかなか本好きにはなっていないと思う。私などは、教室に入っていって「いい本を読んでいるね」などと声をかけることもある。ブックスタートから始まった市あげての事業の中で、本好きにしていってもらわないと駄目だと思っている。今皆さんが言われた、本を大切に扱うということについても、取り組んでいきたい。
渡邊委員	昨年、嵐南分室で、紛失本の数が蔵書の割合に対して多かったと聞いたが、どうか。
図書館長	栄分館・下田分館に比べると多少多かった。図書室に職員さんがいない時間も多いため、リスクがあるかと思う。それについては、貸出手続きのお願いやモラルを呼びかけていくしかないと思っている。 図書館全体としても、返却いただけない本について、連絡とかモラルの呼びかけはこつこつとしているつもりである。
宮島委員長	今、館長の説明の中に「お客様」という言葉があったが、利用者のことを「お客様」と呼ぶ、そういう意識でいるということか。
図書館長	私どもの根底には、そういう意識がある。市の職員さんが運営なさっていた時はどういうふうにお呼びになっていたか、正直わからないが。
長谷川係長	「利用者」。
図書館長	私どもは図書館流通センターという指定管理者だが、私どもにとって図書館の利用者は、最終的な「お客様」という意識でいる。「カウンターの対応が以前と変わった」

	とお客様から言っていただけのも、民間としてそういう意識を持っているからだと思う。ただし、市民の財産を守るためにモラルを求めたりする場合は、下出に出ることはないようにしている。
宮島委員長	大変ていねいな対応をしていただき、こちらが申しわけないくらいだ。しかし、下出に出ることがあるなら考えていただきたいし、文書等で出す言葉でもないと思う。こういう場だから、気持ちをそういう言葉で言っておられるのかなと思う。
図書館長	「利用者」と表現すると、図書館を実際に使ってきてくださっている方に限定してしまうので、「市民」と表現する場合もある。現状では残念ながら、図書館をご利用くださっていない市民の方も多いので、広く呼びかける意味もある。
本井委員	所蔵資料の中に、マイクロフィルム 2,090 巻とあり、かなりの量だと思う。普段の利用はそうは伸びないと思うが、材質による劣化が本以上に激しく、環境の影響をすぐに受ける性格のものなので、気になって仕方がない。すっぱい臭いはしていないか。
佐藤副責任者	収めているケースを開けると、少しすっぱい気がする時がある。
本井委員	大変危険だ。
佐藤副責任者	マイクロフィルムと同時に CD-ROM の作成も行っており、もしマイクロフィルムが駄目になった時は CD で対応するという方針で、地域資料に対しては双方を作成している。
本井委員	マイクロフィルムをもっと長持ちさせてほしい。CD-ROM は 30 年しか持たないが、マイクロフィルムはその倍以上持つ。すっぱい臭いが気になったら空回しして、日頃から空気に触れさせる必要がある。
図書館長	保存環境ではなく、メンテナンスの問題？ 巻いたまま、仕舞いっ放しにしておいてはいけないと思う。
本井委員	そのままにしておく、とにかかく使えない状態になり、貴重な財産がだめになってしまう。非常にやっかいだが、蔵書点検の時でいいと思うので、年に 1 遍ぐらいキャリーから出し、中がぶかぶかしていないか、利用できる状態にあるかを確認する。そして、それを保つために空気に触れさせ、臭いを飛ばして、それでも劣化はするのだが、少し遅らせることができる。お手数だが、ぜひお願いしたいと思う。
図書館長	貴重なご指導、ありがとうございました。
本井委員	そういう仕事を 10 年やっているのだから、他館の状況も気になって仕方がない。古文書などの黄ばみは、何もしなくても大丈夫。乾燥とか湿気とか、よほど極端な状態でなければ、放っておいてもどうもならない。ただ、ごみにまみれていると、どうしても染みが出たり、いつの間にかカビクイムシが出てきたりするのだから、そのあたりは気をつけなければいけない。古文書の紙は、なまじの本よりも長持ちすることは間違いない。1,300 年持っている実績があるので大丈夫。再生紙は 100 年持つか持たないかで、要するに鉄が錆びるのと同じ。空気中の酸素と化合して錆び、ぼろぼろになる。そのように駄目になれば仕方がなく、捨てればいいが、1,300 年必ず持つ。
宮島委員長	それでは次に、協議題(4)「平成 23 年度 4 月以降の利用状況について」の説明をお願いします。
図書館長	資料 No.3 に基づき、平成 23 年度 4 月以降の利用状況について説明

渡邊委員	本年度、登録者が増えているのは何らかの理由があるか。
図書館長	特別なことはしていない。
渡邊委員	東北の被災地からの避難者の登録があるか。
図書館長	避難者の方も登録して下さった方はいるが、それほど多くはなかった。
渡邊委員	登録者が年代別にわかるといい。
図書館長	次回の委員会でご報告する。
宮島委員長	今年度も順調なスタートを切ったということだと思う。 最後に、「その他」で何かあるか。
図書館長	当日配布資料に基づき、古文書の複製による保存・活用の取り組みについて説明
本井委員	あまり物事に興味がない人も、興味を持ったことについては無理矢理にでも見たがるものだ。見たい時にどういうものがあるか、どこから見えていくと自分なりに調べることができるか、「達成できる」という感覚をみんなが身に付けられれば幸いだと思う。ではそういう時にどういうものがあるか、その理解がどこから得られるかと言うと、目録しかない。どんな形であろうと。目録にどういう表現が使われているかが一番問題で、研究者が研究者向けにつくったような、専門的な表現と内容のものであれば、一般の人たち、これからの人たちにとっては、非常にハードルが高く感じられるのではないかという気がする。今さら見直すのは大変だろうと思うが、今の人たちが興味を持てる、理解できる表現に置き換えられる部分は、思い切って変えていかなければならないと思う。それをしないと、次のステップがなかなか開けていかない。だから、なまじ研究者に任せていると、その人たちだけの満足で完結するようになり、一般の人たちへの配慮を全然しないから、むしろそうではない人たちに仕事をしてもらうほうがいいと思う。
小林委員	先週、三条市の史跡めぐりに参加した。前館長の羽賀さんがいろいろなところに連れていってくれて、八幡様では宮司の藤崎さんも呼んできて説明して下さった。今、「専門ではないことをわかりやすく」と言われたが、一般の人に三条の指定文化財と言っても、なかなか遠いものがある。例えば八幡様で「あ、私でも書けそうな字だ」と思って見ても、「これは良寛様が書いたものを持ってきたのだ」と説明してもらおうと、一般の人はそれを聞いてやっとわかる。市民の皆さんは私と一緒にレベルだとは思わないが、「その道の研究する人だけがここを使うのではない」という今のお話を聞いて、より身近に感じたり、もっとわかりやすい話にするということが、子どもや市民に親しんでもらったり、本好きになったり、地域の文化財に親しんでもらうことになるのだと思う。みんなに使ってもらえるように、平易にしたらいいいのではないかと思う。
長谷川係長	当日配布資料に基づき、「第2次三条市子ども読書活動推進計画」と図書館協議会の関わりについて説明
小林委員	直接協議会とは関係ないことで申しわけない。8月18日、19日に学校図書館大会が行われるが、新潟県・富山県・石川県・長野県の北信越地区の研究大会、並びに新潟県の大会でもある。それぞれ4つの県の持ち回りで2年に1回ずつやっており、新潟県で開かれるのは8年に1回である。新潟県大会も2年に1回で、上・中・下越

と回しているのです、6年に1回となっている。三条市で開かれるのは何百年に一回で、きっと私たちが生きているうちは1回だけという待ちに待った大会である。「世代間、関係機関どうしの枠を越え、連携を図り、子どもたちの読書活動を推進していくことで、本との豊かな出会いを提供する場を増やし、読書の楽しみを広げる機会をふやす」ということでやっている。学校図書館大会ではあるが、それぞれ分科会を見ていただければわかるように、保育所や公立・私立を含めた図書館、保護者、ボランティアの皆さんを含めて分科会をやってみたいと考えている。今年は1日目を目玉にして、三条語りの会「とびら」の皆さんと、下田のおはなしコロリンの皆さんに出いただき、「新潟語りの世界」ということで、三条の地元のお話を中心に語っていただくことになっている。

2日目は、分科会の一番下を見ていただきたいが、おはなしポケットから読み聞かせボランティアとして提案発表していただき、図書館の分科会では、図書館スタッフから発表していただく。また、保育所の取り組みについても発表いただく。

ということで、すべて地域の皆さんから助けていただいてやろうとしているから、多くの方に何とか来ていただきたいし、ペンクラブ会長の阿刀田高さんにも来ていただいて講演会をやるので、ぜひ参加をお願いしたいと思う。

宮島委員長

以上で、予定された協議題は全部終了した。大変スムーズ、かつ熱気のある素晴らしい協議会になったと思う。以上で本日の図書館協議会第1回を終了する。